

「地方創生カレッジ for DX推進リーダー」 ワークショップ等の成果のポイント

1. 講座テーマ

少子高齢化や人口減少など、様々な課題が複雑に絡み合う地方都市において、DXを通じた課題解決の重要性はますます高まっています。また、一部の企業では地域課題を新たなビジネスチャンスを捉え、官民連携による課題解決の取り組みが生まれはじめています。

本企画では、全国各地の「社会課題×DX推進」事例を取り上げ、そのエッセンスを紐解いていくことで、都市部にいながら「地域課題を的確に捉え、新たな価値創造を行える人材」の育成を通じた地域のDX支援を行っていきます。デジタルを手段として活用しながら、あるべき状態へのトランスフォーメーションを目指す、地域と協働しながら舵取りをしていく人材を地域に輩出していくことを目指します。

2. 事務局としての講座の重点項目

地域においてDXを現在進行形で取り組んでいる方、DX推進をこれから推進していかなければいけない自治体のご担当者、ローカルの先端DX事例を学びたい民間企業の方などを対象に、全国各地のDX推進事例のノウハウを紐解き、そのプロセスやノウハウを参加者全員で共有することで、今後地域でDX推進に当たる方たちの一助を担うことを目的とします。

3. 受講者の共感を得た講座における重要項目

- (1) 講座独自のフレームワークでDX推進事例を紐解いていくことで、プロジェクトの構成要素が明らかになり、推進イメージがクリアになること
- (2) 当事者たちの原点にあるWill（想いや願い）に触れることで、なぜDXを推進するに至ったのかをより理解することができること
- (3) 受講生同士、または受講生と登壇者のつながりが生まれ、全国各地で現在進行形でDX推進に取り組む、心強い仲間ができること

4. 今回のワークショップやディスカッションを通じて得た気づき(官民連携、人材交流の効果等)

単なるデジタルを活用した課題解決の方法論ではなく、様々な地域課題が生まれている背景を改めて捉え直し、ありたい未来を描くところからプロジェクトが生まれていたという部分が、これからの地域×DXを考えていく上でもとても重要な観点でした。どの取り組みも課題感を持ったリーダーがまわりを巻き込み、様々な試行錯誤を繰り返しながら挑戦を繰り返しており、そのプロセスを各地域でどう再現するのか、生み出せる環境を準備できるかがDXを進める上での本質的な問いだと気づかされました。

「地方創生カレッジ for DX推進リーダー」 ワークショップ等の成果のポイント

5. 成果スキーム図

重点項目: DX推進チャートの導入

今回、全ての事例を、「DX推進チャート」という共通のフレームワークで発表することで、視聴者の皆さんが各事例に共通しているポイントやステップを理解しやすくなることを狙いました(右記は第6講: **育てる金融構想～電子地域通貨さるぼぼコイン～の例**)。また、これまで推進してきたさまざまなアクションをこのチャートで整理整頓いただくことによって、登壇者側にとっても学びや気づきがあることも目指しました。全カリキュラム修了後のアンケートや掲示板からも、今回のフレームワークがわかりやすかったという声をいただいております、試みは成功に終わったと感じています。

